**大切な人やものを失って、抱えきれない気持ち、誰にも話せないこと、お話しいただける相談窓口があります。**

### 電話相談

毎月第１日曜日 午後３時～５時　第３水曜日 午後６時～８時

電話 03-6453-4925

### 対面相談（要予約）

初回：２時間・無料

電話、FAXまたはメールで、お名前とご連絡先をお知らせください。
初回予約日の日程調整をさせていただきます。

電話：03-6453-4925　FAX：03-6453-4926
メール：griefsetagaya@yahoo.co.jp

留守番電話にお名前とご連絡先を入れてください。折り返しご連絡いたします。

### グリーフサポートプログラム　11 時 ~12 時半

～大切な人を亡くした子どもや大人の集い～

**定　員** 5 名（要申し込み）
**参加費** 子ども無料、大人 1 回 500 円
第 1 日曜日　大人プログラム（19 歳以上）
第 2 日曜日　パートナー死別ピアサポートプログラム
第 3 土曜日　子どもプログラム（3 歳～ 18 歳）

サポコミュカフェ

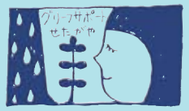
**おひとりでも、複数でもゆったり過ごせる場です。
どなたでもお越しいただけます。**

**開催日時**　隔月（偶数月）第３土曜日午後４時～７時
**参加費**　18 歳まで無料　19 歳から１人 500 円
**場　所**　サポコハウス（世田谷区太子堂 5-24-20-201）三軒茶屋駅から徒歩 15 分

**一般社団法人**
**グリーフサポートせたがや（グリサポせたがや）って？**

死別を体験した子どもやおとなが集い、ゆっくりと自分のペースで自分の気持ちと向き合うことのできる家「サポコハウス」を世田谷区太子堂で運営しています。世田谷区グリーフサポート事業においては、個別対面相談や電話相談などを実施しています。


griefsetagaya@yahoo.co.jp　HP sapoko.org/
www.facebook.com/griefsupportsetagaya


**「グリーフサポートせたがや」の連続講座**

# 映像でみるグリーフ

身近な人や大切なものを失って感じる、
哀しみや傷つきなどのさまざまな心身の反応を
「グリーフ」といいます。

この連続講座は世田谷区グリーフサポート事業により補助されています。
主 催：一般社団法人グリーフサポートせたがや
共 催：世田谷区
所 管：世田谷保健所健康推進課
イラスト：いちむらみさこ、デザイン：merino


## 1

2019年
**7/21(日)**
午後２時～５時

### 『隣る人』

地方のとある児童養護施設の
日常を８年間追った
ドキュメンタリー。

## 2

2019年
**9/7(土)**
午後２時～５時

### 『花はんめ』

川崎市に暮らす在日韓国・
朝鮮人のはんめ（おばあちゃん）
たちの日常を追った記録映画。

## 3

2019年
**11/2(土)**
午後２時～５時

### 『聴こえてる、ふりをしただけ』

不慮の事故で母親を亡くした、
11歳の少女・サチが主人公。

世田谷文化生活情報センター「生活工房」5F セミナールームAB

「グリーフサポートせたがや」の連続講座

# 映像でみるグリーフ

## 第1回 2019年 7月21日(日) 午後2時～5時

### 『隣る人』

（2011・85分・監督：刀川和也、企画：稲塚由美子）

一緒にごはんを食べ、お手伝いをして、遊んで、絵本を読んでもらう。ときには怒ってへこんで泣いたって、同じ布団で寝れば同じ朝がくる。親と一緒に暮らせない子どもたちと「隣り合う」おとなたち、そして毎日を懸命に生きる親たち。平凡だけれど大切な日々の暮らしは今日も続きます。製作・配給：アジアプレス・インターナショナル。

**トークゲスト：稲塚由美子（いなづか・ゆみこ）さん**

**（ミステリー評論家/ドキュメンタリー映像制作）**

東京外国語大学外国語学部スペイン語学科卒業。商社勤務を経て、海外ミステリーの翻訳者から評論家に転身。ドキュメンタリー映画『隣る人』企画。社会福祉法人児童養護施設「光の子どもの家」理事。足立区民生・児童委員。日本の戦争責任資料センター機関誌で映画評を担当するなど、映画のもつ可能性も広く紹介し、独立したジャーナリズムとして世界の問題を伝えるフリー・ジャーナリストの集団「アジアプレス・インターナショナル」と連携しつつ、マスメディアでは報道されない人間一人ひとりの側に立った情報の掘り起こしと告知をしている。

## 第2回 2019年 9月7日(土) 午後2時～午後5時

### 『花はんめ』

（2004・98分・監督：金聖雄）

監督の言葉より「私の母、金正順(キム・ジョンスン)は病死しました。77年の生涯…母はしあわせだったのだろうか。末っ子で苦労をかけた私には、悔いが残りました。何もしてあげられなかったと…母や在日一世たちが歴史の渦に飲み込まれながらも日本という舞台でたしかに生きた、生きているというあかしを残したい。この映画は私のそんな思いを仲間たちの力を借りてかたちにしたものです。私に出来ることは、小さなお墓を創るような気持ちで、映画をつくることでした。」製作：花はんめ製作・上映委員会。

**トークゲスト：金聖雄（きむ・そんうん）さん**

**（映画監督）**

大阪・鶴橋に生まれる。大学卒業後（株）リクルート勤務。その後自分で商売をはじめるが失敗。「何か?やりたい、出来るんだ」という想いを胸にくすぶらせながら、結局“愛する人”を追いかけて東京へ…。東京にて料理写真家の助手を経験後、助監督になる。1993年からフリーの演出家としてスタート、PR映像やドキュメンタリー、テレビ番組など幅広く手がける。2004年「花はんめ」を監督。おもな映画作品「SAYAMAみえない手錠をはずすまで」（2013）、「袴田巌 夢の間の世の中」（2015）、「獄友」（2018）。

## 第3回 2019年 11月2日(土) 午後2時～5時

### 『聴こえてる、ふりをしただけ』

（2012・99分・監督：今泉かおり）

少女サチが直面した「母親の死」。誰もが抱える“子どものわたし”をあたたかく包みこむ喪失と再生の物語。遺された者は、どう生きて行けばいいのか。深い喪失から立ち上がり、明日へと生きるためには、何を捨て、何を自覚しなければならないのか。11歳の少女が悩み、立ち止まり、再び新しい日常へと生きる姿を瑞々しく綴った本作は、大人を一度子どもに戻してから、子どもから大人にさせてくれる。

**監督の紹介：今泉かおり（いまいずみ・かおり）さん**

**（映画監督・看護師）**

大分県生まれ。看護師として働きながら子育てをしつつ、映画の企画を考案中。大阪で看護師として働いていたが、監督を志し、2007年に上京、ENBUゼミナールで映画製作を学ぶ。卒業制作の短編『ゆめの楽園、嘘のくに』が2008年度の京都国際学生映画祭準グランプリとなる。第7回シネアスト・オーガニゼーション・大阪（CO2）の助成対象作品に選ばれ、長女の育児休暇を利用して制作された『聴こえてる、ふりをしただけ』は、2012年ベルリン国際映画祭「ジェネレーションKプラス」部門で、準グランプリにあたる"子ども審査員特別賞"を受賞。

**世田谷文化生活情報センター「生活工房」5F セミナールームAB**

1000円（介助者は参加費無料）

先着70名（当日参加可・満席の場合は事前申込者優先）

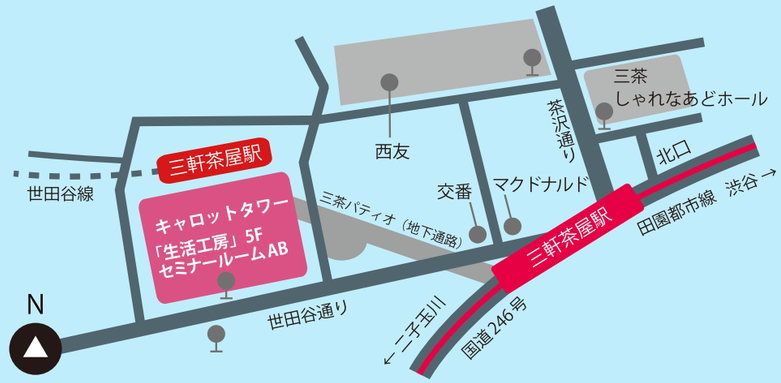
申込先　Email、電話またはFAXで一般社団法人グリーフサポートせたがやへ

**Email: griefsetagaya@yahoo.co.jp、電話：03-6453-4925、FAX：03-6453-4926**

留守電の場合は、お名前とご連絡先を入れてください。折り返しご連絡します。

＊単発の参加も可能です。
＊原則として、世田谷区在住・在勤・在学の方が対象です。
＊会場にはエレベーターがあり、会場内は車いすで移動できます。
　駅のエレベーターの設置状況については「らくらくおでかけネット（www.ecomo-rakuraku.jp）」のサイトが参考になります。
＊日本語字幕を投影する予定です。トークにはパソコン文字通訳・手話通訳がつきます。
＊保育は申し込みが必要です。

会場までのアクセス

**キャロットタワー「生活工房」5F セミナールームAB**

（世田谷区太子堂4－1－1）
東急田園都市線・世田谷線
「三軒茶屋」駅から徒歩5分